

# Arts &

オンライン研究会（全3回）

## 刑務所と芸術を考える — 阻む壁、実践、その社会的意義

諸外国では、受刑者の芸術活動が盛んに行われています。それは、教育や社会復帰につながるものとされたり、あるいは、そうした活動や作品が広く社会に公開されることで、この社会における犯罪や刑事司法をめぐる問題を問い直す場を生み出すなど、さまざまな捉え方があります。日本においても、矯正管区が主催する文芸作品コンクールや、少年院の映像表現コンクール、死刑囚の表現展、刑務所内のクラブ活動などの文化活動が存在します。しかし、矯正施設（特に刑務所）は、応報的な刑罰のためにあるという社会認識のためか、ある種の余暇活動とも思われるこうした活動はこれまでなかなか注目されてきませんでした。

そこで、本研究会シリーズでは、改めてこの「刑務所と芸術」というテーマについてさまざまな専門家や関係者、当事者、そして関心を持ってくれた参加者とともに考えたいと思います。

第2回 日時：2021年9月26日（日）14:00～16:00

実践：刑務所の文芸作品コンクールとは

あまり知られていませんが、少年院や刑務所の被収容者を対象にした文芸作品コンクールが行われています。詩や短歌、絵画、読書感想文、文芸誌などが公募され、外部の専門家による審査を経て入賞作品などが決まります。その成果は、矯正展などで公開されることもあります。施設によっては公開していないこともあります。そこで、日本の矯正施設で長く続けられているこの文芸作品コンクールとはどのようなものなのかについて、審査員などの立場から関わる登壇者を中心として聞いてみたいと思います。

### 話題提供者：

・風間勇助（東京大学大学院博士課程2年 / 龍谷大学犯罪学研究センター嘱託研究員）

### コメンテーター（五十音順）：

- ・荒木瑞穂さん（歌人、金石研究家）
- ・五十嵐弘志さん（NPO法人マザーハウス代表）
- ・上田假奈代さん（詩人、NPO法人「こえとことばとこころの部屋」代表）
- ・小山田徹さん（美術家、京都市立芸術大学教授）
- ・高橋亘さん（NPO法人「こえとことばとこころの部屋」）

▼参加申込はこちら



刑務所と芸術

Journal